

4. オンネットー地区道路環境保全会議について

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

1. 活動経過

・【オンネット一地区道路環境保全会議(第1回)】(令和5年5月25日)

会議 : 13:30～ 足寄町役場 1階会議室

- ・活動経過、今後の予定についての説明
- ・質疑応答



会議の様子

現地 : 15:00～ オオハンゴンソウ駆除箇所

- ・オオハンゴンソウ生育箇所にて駆除試験(防草シート敷設)を実施



防草シート敷設の様子

参加団体 (R5.10現在)

事務局
北海道十勝総合振興局
帯広建設管理部

- 雌阿寒自然塾
- 足寄山友会
- NPO法人 あしよろ観光協会
- NP法人 十勝多自然ネット
- 川と河畔林を考える会

- 日本野鳥の会十勝支部
- 浦幌野鳥倶楽部
- 帯広ウチダザリガニ・バスターズ
- 十勝川中流部市民協働会議
- 足寄町

※ ○は当日の参加団体

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

1. 活動経過

・【オンネトー地区道路環境保全会議 自然観察会】(令和5年10月18日)

※ ワークショップ現地見学会と同日に実施

現地 : 13:15～ ①オオハンゴンソウ駆除箇所、②螺湾川支流合流点箇所、③法面植生試験箇所、
④保全会議学習会箇所

- ・オオハンゴンソウ生育箇所にて、5月に敷設した防草シートを一部剥がしオオハンゴンソウの状況を確認
- ・澤村WS構成員によるオンネトー地区の地質に関する自然観察会(学習会)を実施



オオハンゴンソウ箇所の様子



学習会の様子

参加団体 (R5.10現在)

事務局
北海道十勝総合振興局
帯広建設管理部

- 雌阿寒自然塾
足寄山友会
- NPO法人 あしよろ観光協会
- NP法人 十勝多自然ネット
川と河畔林を考える会
- 日本野鳥の会十勝支部
- 浦幌野鳥倶楽部
帯広ウチダザリガニ・バスターズ
- 十勝川中流部市民協働会議
足寄町

※ ○は当日の参加団体

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

2. 活動計画

・今後の予定

項目	時期	内容
保全会議	令和6年2月	・次回会議は2月に令和6年度活動予定(案)の策定を含めて開催予定
学校連携		11月6日足寄高校へ説明

3. 質疑応答

・学校連携

Q：足寄高校の生徒さんたちとの活動というのは今の段階では生物調査がメインとして考えているという事か。

A：今はとっかかりとして、外来種の駆除を含めて内容等を説明している途中である。色んなご提案があれば、これから先生生徒とかの目線でも何かご意見をいただきながら活動ができればいいかなという思いです。

・法面植生

Q：切り土した時の岩が露出する所の対応は、これから検討していくということか。

A：溶岩に対する法面保護としては、WSでは繊維ネットで考えているという説明をさせていただいている。

・現地見学会

Q：今見えている地層と将来的に露出するだろう地層に対して、先生のご意見なり、地質の特性などの話を聞ければ。

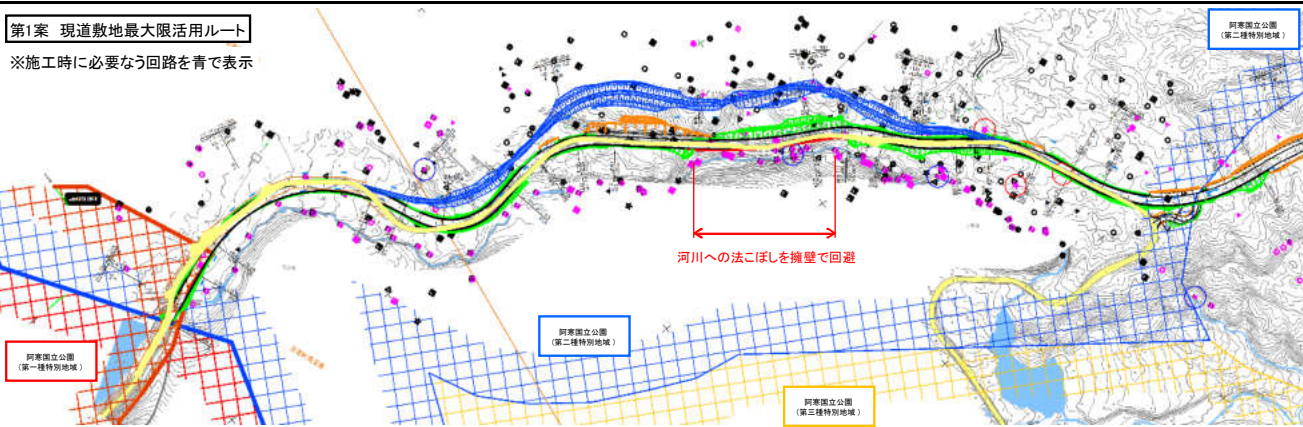
A：専門的な地質の話をされてもなかなか難しい所がある。そうであれば、今、おっしゃった通り、現状で見える地層の所に行って、先生にお話していただくよう伝えたいと思います。

5. 道路計画ルート検討について

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

第1案 現道敷地最大限活用ルート

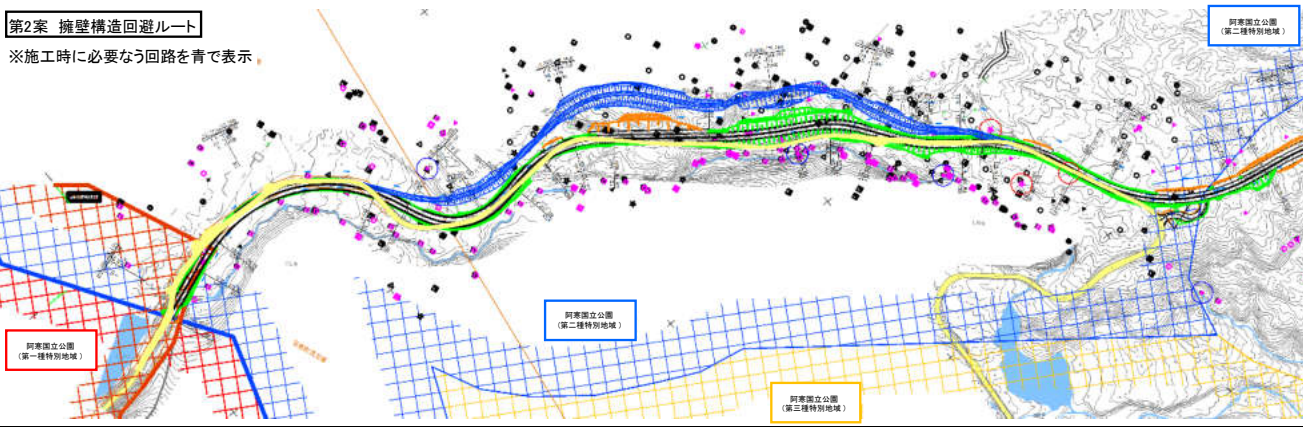
※施工時に必要な回路を青で表示



項目	重要種 保全	公園指定植物 保全	改変面積	土工バランス	評価
	△	○	○	△	
	消失箇所 14箇所	消失箇所 44箇所	26,608m ²	不足土 8,070m ³	6点
<p>現道敷地を最大限活用した場合、河川への法こぼしを回避するために擁壁が必要になり、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、<u>回路が必要になるため、改変面積が増加し、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また、全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を適用する必要</u>があることから、通過ルートとして不適当と判断した。</p>					

第2案 擁壁構造回避ルート

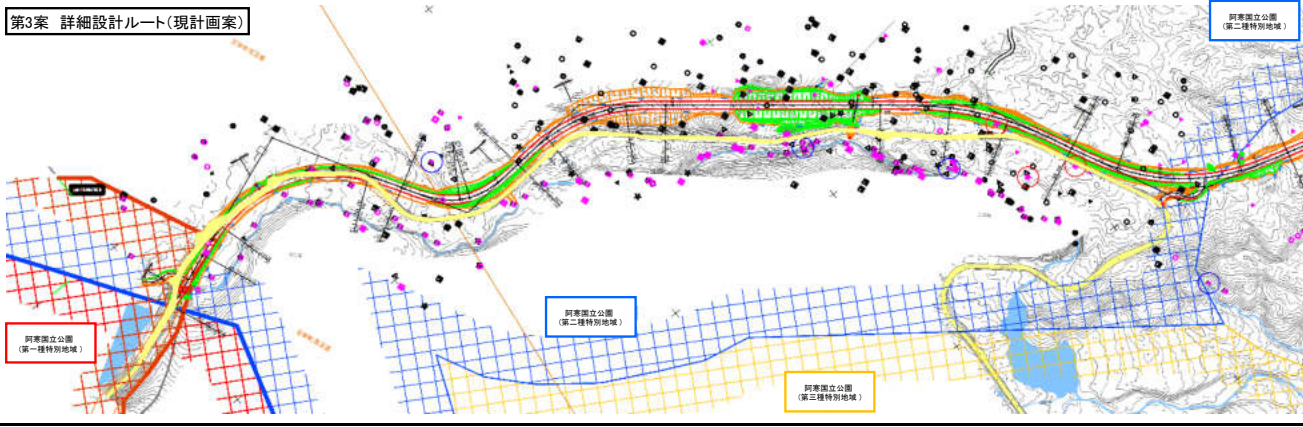
※施工時に必要な回路を青で表示



項目	重要種 保全	公園指定植物 保全	改変面積	土工バランス	評価
	○	△	△	△	
	消失箇所 13箇所	消失箇所 46箇所	28,622m ²	不足土 10,079m ³	5点
<p>第1案に対し、擁壁構造を回避するために一部線形を河川の法こぼしが発生しない位置に選定したが、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、<u>回路が必要になる。改変面積も最も大きく、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また、全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を適用する必要</u>があることから、通過ルートとして不適当と判断した。</p>					

第3案 詳細設計ルート(現計画案)

※施工時に必要な回路を青で表示



項目	重要種 保全	公園指定植物 保全	改変面積	土工バランス	評価
	◎	◎	◎	◎	
	消失箇所 9箇所	消失箇所 28箇所	23,332m ²	残土 2,820m ³	12点
<p>現計画案は現道と並走する形状としているため、<u>回路が不要になるため、改変面積が最も少ない。また、重要種や公園指定植物の消失箇所が最も少なく、土工バランスに優れ、残土となるため3案中最も環境への影響が少ない</u>と判断した。</p>					

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

5. 道路計画ルートについて(SP0~1300区間影響比較)

案	改変面積	土エバランス	重要種 消失箇所数	公園指定種 消失箇所数
第1案 (現道最大限活用案)	26,608m ²	8,070m ³ 不足	14箇所	44箇所
第2案 (第1案擁壁回避案)	28,622m ²	10,079m ³ 不足	13箇所	46箇所
第3案 (現計画)	23,332m ²	2,820m ³ 残	9箇所	28箇所

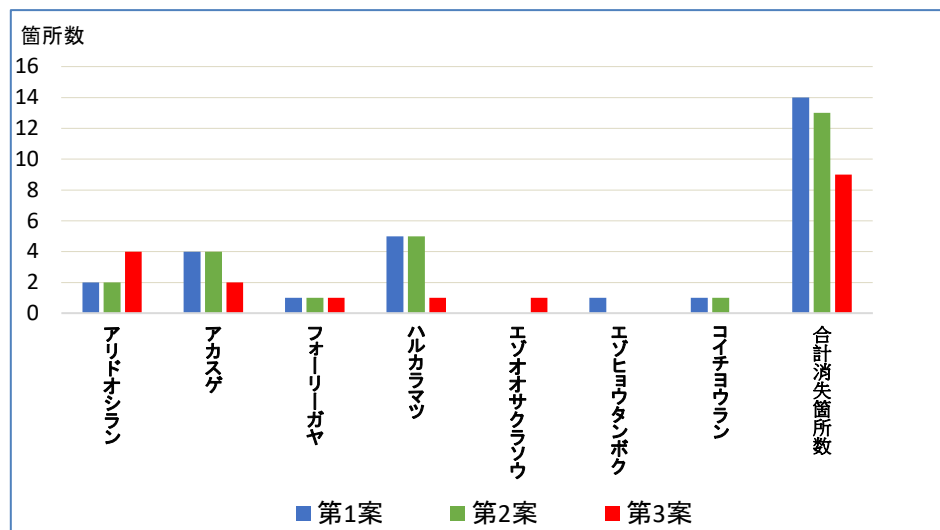
重要種消失箇所数

重要種消失箇所数

和名	ルート案(SP0~1300)			調査範囲内 全体生育 箇所数	国2020	道2001
	第1案	第2案	第3案			
アリドオシラン	2	2	4	22		R
アカスゲ	4	4	2	61	VU	Vu
フォーリーガヤ	1	1	1	24	CR	
ハルカラマツ	5	5	1	89	VU	
エゾオオサクラソウ			1	130		R
エゾヒョウタンボク	1			26	VU	
コイチョウラン	1	1		4		En
合計消失箇所数	14	13	9	356		

国2020
VU: 絶滅危惧Ⅱ類
CR: 絶滅危惧ⅠA類
R: 希少種

道2001
En: 絶滅危惧種
Vu: 絶滅危急種



5. 道路計画ルートについて(SP0～1300区間影響比較)

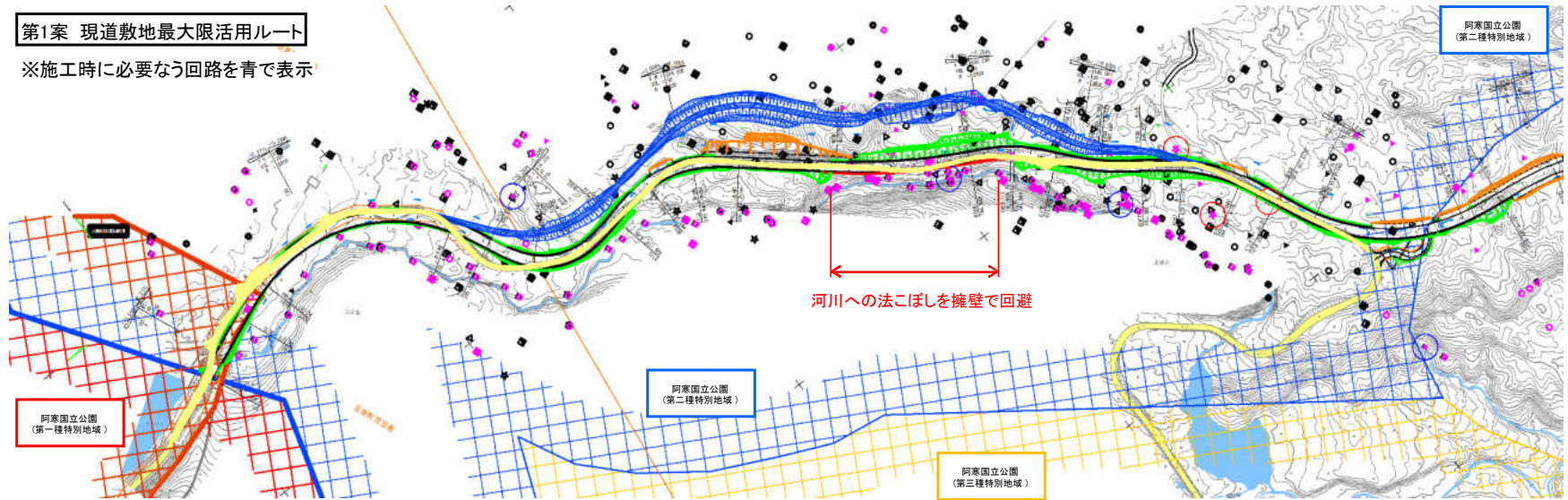
案	設計上の課題等
<p>第1案 (現道最大限活用案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・螺湾川への法こぼしを回避するために擁壁が必要 ・現道交通を確保する必要があることから、う回路が必要 ・全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土の流用が必要 ➡改変面積、重要種、公園指定植物の消失箇所が多い
<p>第2案 (第1案擁壁回避案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現道交通を確保する必要があることから、う回路が必要 ・全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土の流用が必要 ➡改変面積、重要種、公園指定植物の消失箇所が多い
<p>第3案 (現計画)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・う回路が不要 ➡改変面積、重要種、公園指定植物の消失箇所が最も少ない

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

第1案 現道敷地最大限活用ルート

第1案 現道敷地最大限活用ルート

※施工時に必要な回路を青で表示



評価項目

国立公園指定種

重要種

重要種 保全	公園指定 植物保全	変更面積	土工 バランス	評価
△	○	○	△	○ 6 点
消失箇所 14箇所	消失箇所 44箇所	26,608m ²	不足土 8,070m ³	
<p>現道敷地を最大限活用した場合、河川への法こぼしを回避するために擁壁が必要になり、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、う回路が必要になるため、変更面積が増加し、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また、全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を流用する必要があることから、通過ルートとして不相当と判断した。</p>				

和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
イソツツジ	5	5	5
ウサギンダ	5	8	8
ウスバスマレ			1
エゾオオサクラソウ			1
エゾトリカブト	2	1	1
エンレイソウ属	1	1	
ギンリョウソウ	6	6	3
コイチャクソウ	1	1	1
コケモモ	5	5	
ジンヨウイチャクソウ	1	1	2
ヒメイチゲ	5	5	2
ミツバオウレン	1	1	
ミヤマハンショウヅル	12	12	4
合計消失箇所数	44	46	28

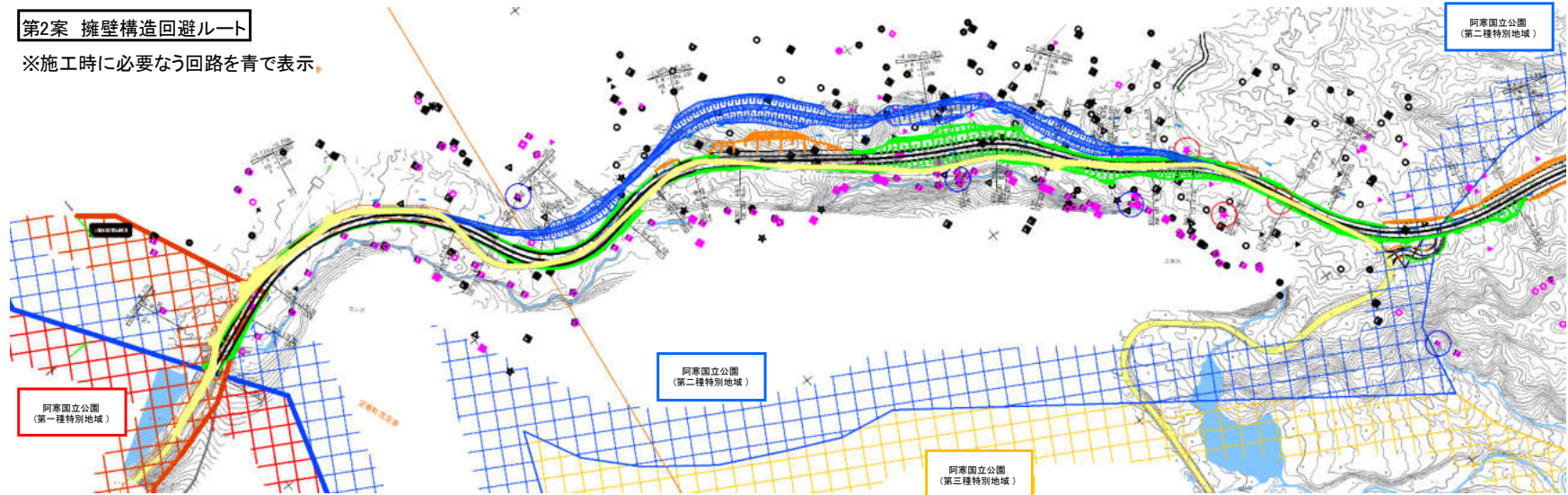
和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
アリドオシラン	2	2	4
アカスゲ	4	4	2
フォーリーガヤ	1	1	1
ハルカラムツ	5	5	1
エゾオオサクラソウ			1
エゾヒョウタンボク	1		
コイチョウラン	1	1	
合計消失箇所数	14	13	9

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

第2案 擁壁構造回避ルート

第2案 擁壁構造回避ルート

※施工時に必要な回路を青で表示。



評価項目

重要種 保全	公園指定 植物保全	改変面積	土工 バランス	評価
○	△	△	△	△
消失箇所 13箇所	消失箇所 46箇所	28,622m ²	不足土 10,079m ³	
第1案に対し、擁壁構造を回避するために一部線形を河川の法こぼしが発生しない位置に選定したが、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、 <u>2</u> 回路が必要になる。改変面積も最も大きく、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を流用する必要があることから、通過ルートとして不適当と判断した。				5点

国立公園指定種

和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
イソツツジ	5	5	5
ウサギシダ	5	8	8
ウスバスマレ			1
エゾオオサクラソウ			1
エゾトリカブト	2	1	1
エンレイソウ属	1	1	
ギンリョウソウ	6	6	3
コイチャクソウ	1	1	1
コケモモ	5	5	
ジンヨウイチヤクソウ	1	1	2
ヒメイチゲ	5	5	2
ミツバオウレン	1	1	
ミヤマハンショウヅル	12	12	4
合計消失箇所数	44	46	28

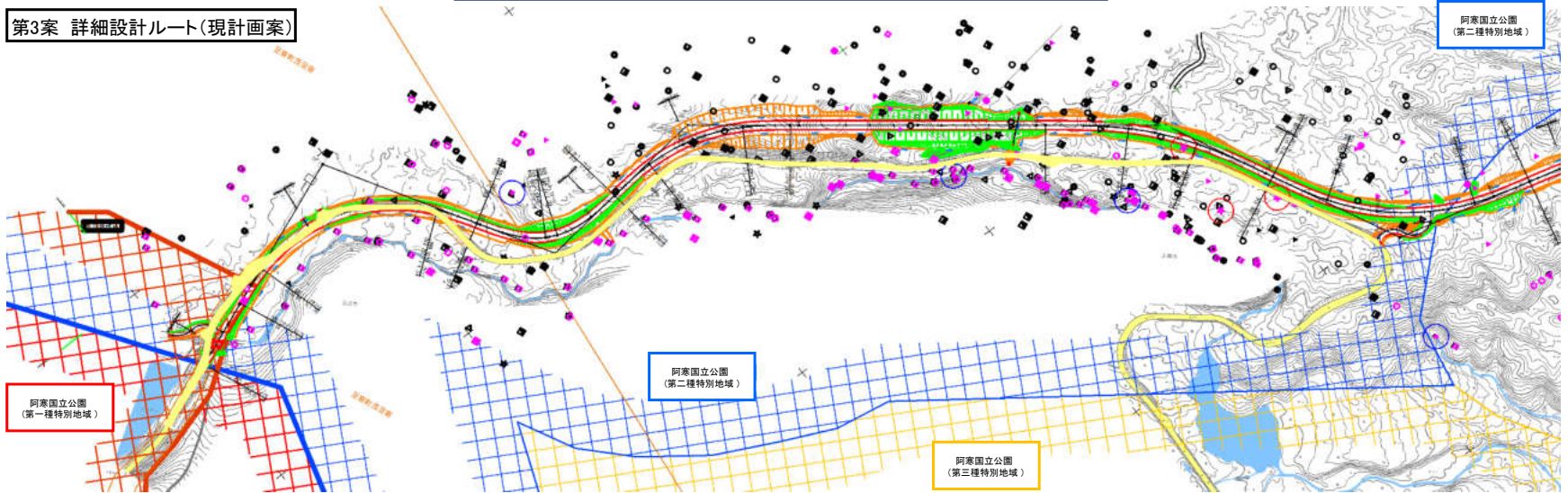
重要種

和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
アリドオシラン	2	2	4
アカスゲ	4	4	2
フォーリーガヤ	1	1	1
ハルカラムツ	5	5	1
エゾオオサクラソウ			1
エゾヒョウタンボク	1		
コイチョウラン	1	1	
合計消失箇所数	14	13	9

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

第3案 詳細設計ルート(現計画案)

第3案 詳細設計ルート(現計画案)



評価項目

重要種 保全	公園指定 植物保全	改変面積	土工 バランス	評価
◎	◎	◎	◎	◎
消失箇所 9箇所	消失箇所 28箇所	23,332m ²	残土 2,820m ³	
項目 現計画案は現道と並走する形状としているため、 う回路が不要になるため、改変面積が最も少ない。 また、重要種や公園指定種の消失箇所が最も少 なく、土工バランスに優れ、残土となるため3案中 最も環境への影響が少ないと判断した。				

国立公園指定種

和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
イソツツジ	5	5	5
ウサギシダ	5	8	8
ウスバスミレ			1
エゾオオサクラソウ			1
エゾトリカブト	2	1	1
エンレイソウ属	1	1	
ギンリョウソウ	6	6	3
コイチャクソウ	1	1	1
コケモモ	5	5	
ジンヨウイチヤクソウ	1	1	2
ヒメイチゲ	5	5	2
ミツバオウレン	1	1	
ミヤマハンショウヅル	12	12	4
合計消失箇所数	44	46	28

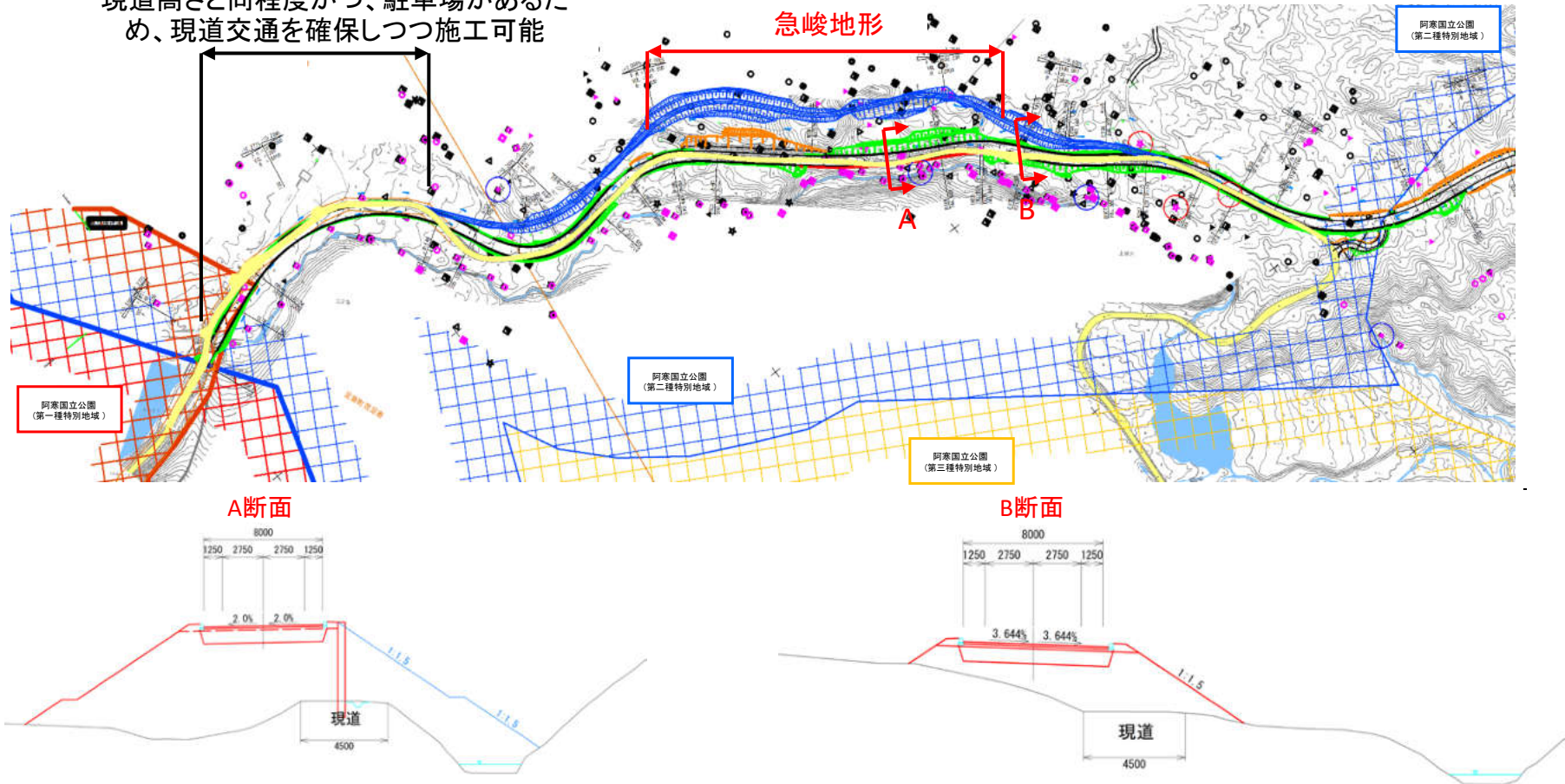
重要種

和名	ルート案(SP0~1300)		
	第1案	第2案	第3案
アリドオシラン	2	2	4
アカスゲ	4	4	2
フォーリーガヤ	1	1	1
ハルカラムツ	5	5	1
エゾオオサクラソウ			1
エゾヒョウタンボク	1		
コイチョウラン	1	1	
合計消失箇所数	14	13	9

令和5年度 モアシヨロ原野螺湾足寄停車場線 モアシヨロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

施工時にう回路が必要な理由

現道高さと同程度かつ、駐車場があるため、現道交通を確保しつつ施工可能



現道は最急勾配約10%で終点側に向かって下り勾配となっている(計画案は、冬期通行に考慮し最急勾配6%で計画)。そのため、現道敷地に計画案を最大限寄せたとしても、計画案と現道で高低差が発生する。施工時に雌阿寒岳が噴火した際に、現道を利用して避難する必要があるため、通行止めでの施工は出来ない。⇒う回路が必要

※現道のR側は河川が並走しているため、う回路はL側に整備する事になるが、旗揚げした区間(赤)は地形の高低差が大きく、当該箇所の切土・盛土規模を抑えるために、う回路延長が増加する